

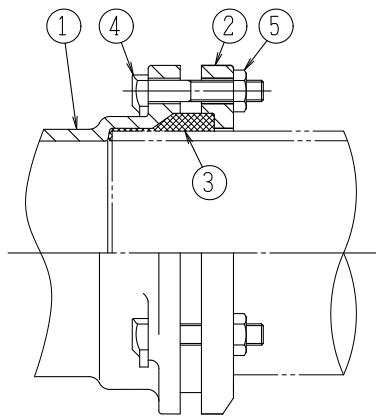
施 工 手 順

厨房排水用可とう継手
WAC-Ⅱジョイント

2017年10月12日 作成

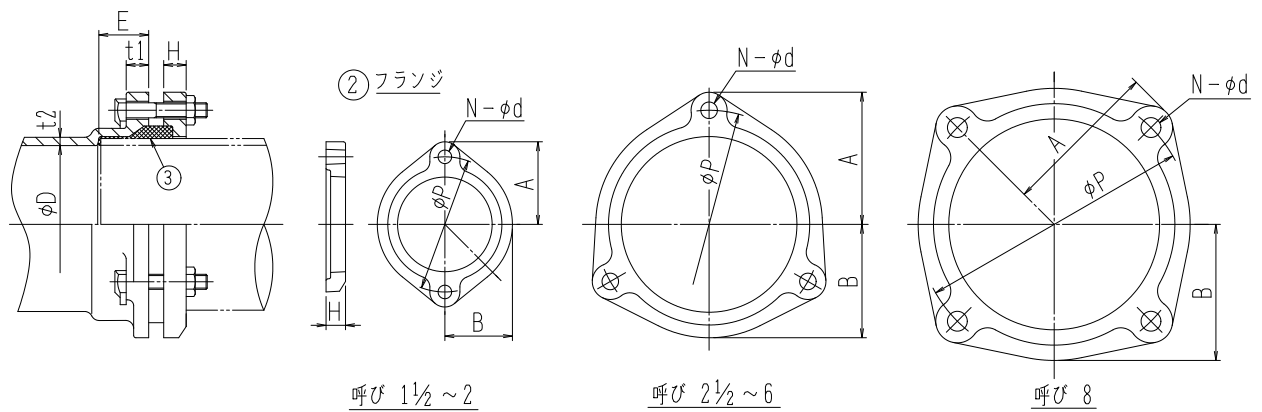
●部品構成表及び寸法表（継手受口部の構造・寸法）

1. クッションパッキン形



構成部品表

No.	部品名	材質	表面処理
1	本体	FC150	ナイロンコーティング(黒)
2	フランジ	FCD500-7	エポキシ粉体塗装(グレー)
3	クッションパッキン	NBR	—
		EPDM	—
4	T字ボルト	SWCH	電気亜鉛めっき
5	六角ナット	SWCH	電気亜鉛めっき



寸法表 (mm)

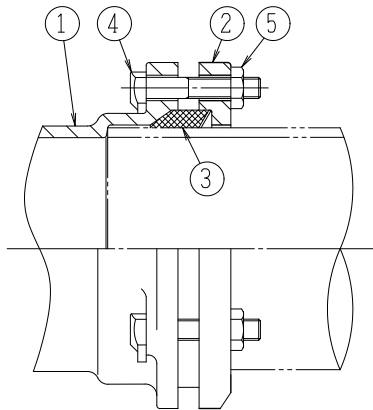
④ T字ボルト

⑤ 六角ナット



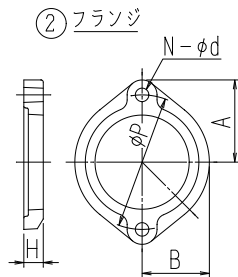
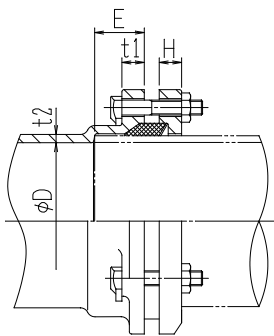
呼び	本体				フランジ						ボルト、ナット	
	D	E	t1	t2	A	B	H	P	N	d	M	L
1½	42	19	4.5	10	48	36.5	13	76	2	10	M8	40
2	53	22	5	12	55	45	13	90	2	10	M8	45
2½	68	25	5	13	63.5	53.5	14	107	3	10	M8	45
3	81	28	5.5	14	75	62	15	126	3	12	M10	52
4	105	33	5.5	15	88	75.5	15	152	3	12	M10	52
5	131	36	6	18	104.5	90	19	181	3	15	M12	65
6	155	39	6	18	119	104.5	19	210	3	15	M12	65
8	205	48	8	20	149	132	20	266	4	17	M14	75

2. ロックパッキン形

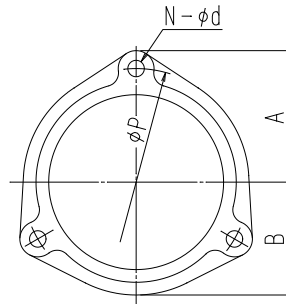


構成部品表

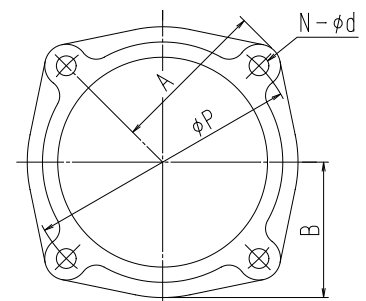
No.	部品名	材質	表面処理
1	本体	FC150	ナイロンコーティング(黒)
2	フランジ	FCD500-7	エポキシ粉体塗装(グレー)
3	ロックパッキン	SBR	—
4	T字ボルト	SWCH	電気亜鉛めっき
5	六角ナット	SWCH	電気亜鉛めっき



呼び 1¼ ~ 2



呼び 2½ ~ 6



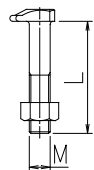
呼び 8

寸法表 (mm)

呼び	本体				フランジ						ボルト、ナット	
	D	E	t1	t2	A	B	H	P	N	d	M	L
1¼	36	18	4.5	10	45	33	13	70	2	10	M8	40
1½	42	19	4.5	10	48	36.5	13	76	2	10	M8	40
2	53	22	5	12	55	45	13	90	2	10	M8	45
2½	68	25	5	13	63.5	53.5	14	107	3	10	M8	45
3	81	28	5.5	14	75	62	15	126	3	12	M10	52
4	105	33	5.5	15	88	75.5	15	152	3	12	M10	52
5	131	36	6	18	104.5	90	19	181	3	15	M12	60
6	155	39	6	18	119	104.5	19	210	3	15	M12	60
8	205	48	8	20	149	132	20	266	4	17	M14	75

④ T字ボルト

⑤ 六角ナット



●施工方法

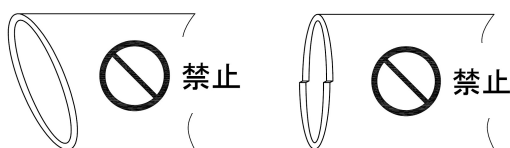
1. クッションパッキン形

(1) 管の準備

- ①使用に適した管種であることを確認して下さい。
- ②正確に管の寸法取りをして下さい。

(2) 管の切断

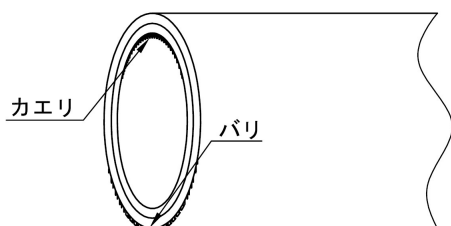
- ①帯のご盤や金のご盤等の切断機を用いて、管軸に対して直角に切断して下さい。



切断機の例

- ②管端内外の面取りをして下さい。

注意：管端面にバリがあるとパッキン装着の際にパッキンを損傷する恐れがあります。



- ③管のパッキン当たり面に変形やキズがないことを確認して下さい。
油や土砂などは除去して下さい。

(3) 管の接続

①管端部の防錆処理

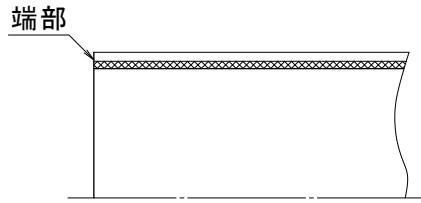
防錆処理は次のいずれかの要領で行って下さい。

防錆塗料としては、ヘルメシール 30-V や無酸成分系のシリコンシーラント等があります。

防錆塗料はタレ、ムラなどのないように全周にわたって均一に塗布して下さい。

注意：これらの防錆処理を併用すると、各々の防錆塗料に悪影響をおよぼす恐れがあります。

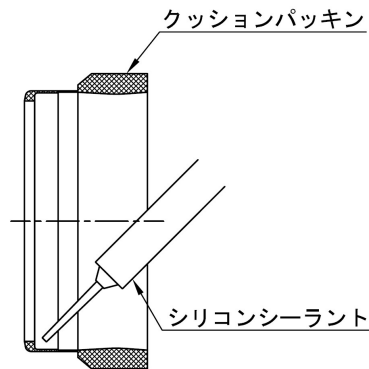
- a) ヘルメシール 30-V を使用する場合は、管の端部(切断面及び面取り部)に塗布して下さい。



- b) シリコンシーラントを使用する場合は、クッションパッキンの内側コーナー部に塗布して下さい。

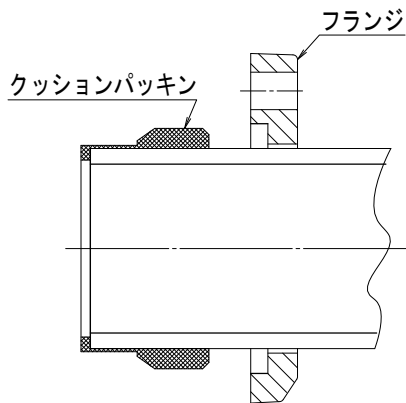
注意：シリコンシーラントが硬化する前に、管に装着して下さい。

シリコンシーラントが内側にはみ出した場合は拭き取って下さい。

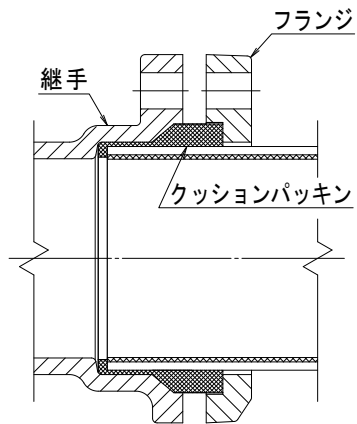


- ② 管にフランジを挿入した後、クッションパッキンを管端部に当たるまで挿入して下さい。

注意：フランジの向きを間違えないようにして下さい

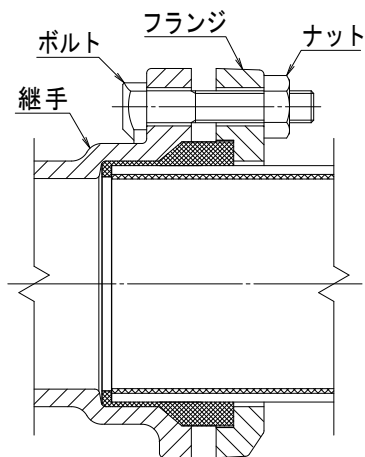


- ③フランジ、クッションパッキンを装着した管端を継手受け口部に差し込んで下さい。
熱膨張による管の伸びに対しては、継手と管の間に隙間を設けるなどの措置の必要はありません。



- ④ボルトは原則として継手本体側から差し込み、フランジ側をナットで締付けて下さい。
尚、継手形状によっては本体側からボルトが差し込めないものがあります。この場合はボルトをフランジ側から差し込んで下さい。
ボルトの締付けの際は表に示すボルト締付けトルクにて均一に締付けて下さい。

注意：片締めや締付け不足、過度の締付けにより、部品の欠損や性能の低下を招くことがあります。



クッションパッキンのボルト締付けトルク

呼び	1 ¹ / ₄	1 ¹ / ₂	2	2 ¹ / ₂	3	4	5	6	8
N・m	12.7	12.7	14.7	14.7	29.4	29.4	44.1	44.1	73.5

注意：管を再接続する場合は新しい継手を使用して下さい。
使用した継手の再使用は性能の低下を招くことがあります。

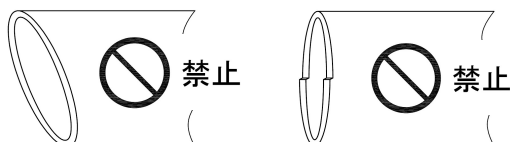
2. ロックパッキン形

(1) 管の準備

- ①使用に適した管種であることを確認して下さい。
- ②正確に管の寸法取りをして下さい。

(2) 管の切断

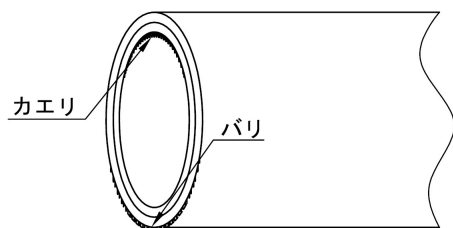
- ①帯のご盤や金のご盤等の切断機を用いて、管軸に対して直角に切断して下さい。



切断機の例

- ②管端内外の面取りをして下さい。

注意：管端面にバリがあるとパッキン装着の際にパッキンを損傷する恐れがあります。

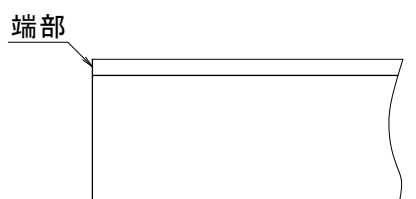


- ③管のパッキン当たり面に変形やキズがないことを確認して下さい。
油や土砂などは除去して下さい。

(3) 管の接続

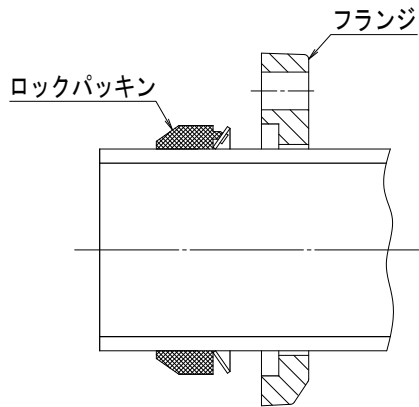
①管端部の防錆処理

管の端部(切断面及び面取り部)に防錆塗料による防錆処理を行って下さい。
防錆塗料としては、ヘルメシール 30-V 等があります。
防錆塗料はタレ、ムラなどのないように全周にわたって均一に塗布して下さい。

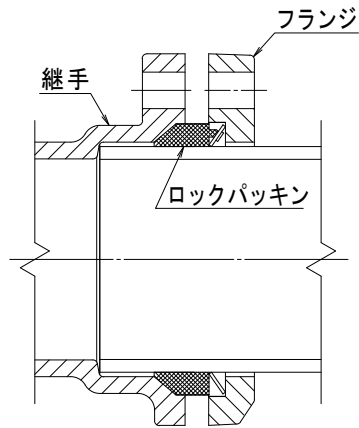


②管にフランジ、ロックパッキンの順に装着して下さい。

注意：フランジ及びロックパッキンの向きを間違えないようにして下さい

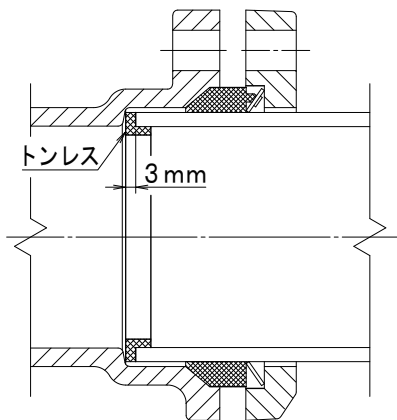


③フランジ、ロックパッキンを装着した管端を継手受け口部に差し込んで下さい。



熱膨張による管の伸びに対応する場合には、継手と管の間に 3mm 程度の隙間を設けることを推奨します。

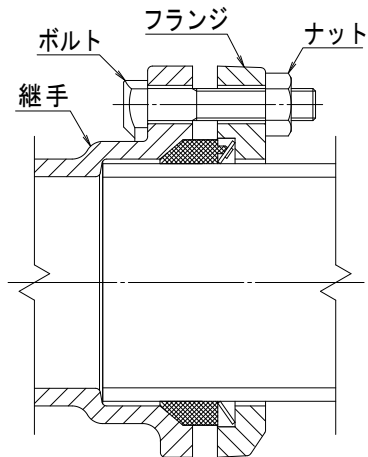
尚、水溶性のスペーサー(商品名 トンレス)を使用すると、容易に隙間を設けることができます。



④ボルトは原則として継手本体側から差し込み、フランジ側をナットで締付けて下さい。
尚、継手形状によっては本体側からボルトが差し込めないものがあります。この場合はボルトをフランジ側から差し込んで下さい。

ボルトの締付けの際は表に示すボルト締付けトルクにて均一に締付けて下さい。

注意：片締めや締付け不足、過度の締付けにより、部品の欠損や性能の低下を招くことがあります。



ロックパッキンのボルト締付けトルク

呼び	1 ¹ / ₄	1 ¹ / ₂	2	2 ¹ / ₂	3	4	5	6	8
N・m	12.7	12.7	14.7	14.7	29.4	29.4	44.1	44.1	73.5

注意：管を再接続する場合は新しい継手を使用して下さい。

使用した継手の再使用は性能の低下を招くことがあります。